

単元の目標

ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、順序数に関する問題を解いたりすることができるようにする。

本時の目標

順序数を集合数にとらえ直し、図や式に表して考え、問題を解くことができるようにする。

幼児期とのつながり

学びをつなぐための教師同士の交流①

幼稚園を訪問し、本題材につながる幼児期の姿を知り、指導案に記載し、授業に生かすようにする。

就学前施設でも遊びや生活の中で「並ぶ」経験をしています。



ぼくは4番目だ。

巧技台からジャンプ！
並んで順番を待つよ。

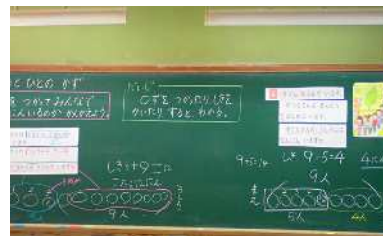


前から5番目。次かな？

先生「さあ、出発しますよ。今日は前から3人ずつ出発しましょう。」

授業内容

「Aさんは3番目に並んでいます。Aさんの後ろには9人の人が並んでいます。みんなで何人並んでいますか」という問題を、「まる図」を使って考える。



本時のポイント(主な支援)

- 問題場面をイメージできるように、挿絵を提示し、問題文を一文ずつ提示する。
- 図の書き方がわからずに困っている子がいれば、途中まで書いている図を配り、自己解決に導く。
- 「前から3番目、後ろに何人」という言葉を「まる図」と結び付けて集団で確かめる。

事後研修での内容(主な意見)

学びをつなぐための教師同士の交流②

- 実際に並んでみたり、フープ(輪)を使用して、より「まる図」をイメージしやすくしたりするなど、体を動かす場面があると、授業に参加しやすく、自分事として捉えられるのではないかと。→次年度の同単元の指導に生かす
- 「前から何人」「ものの数え方」など、幼児期の生活の中でも使用している言葉も多い。小学校の学習内容を知ることで、幼保の保育者が学びへのつながりを意識した幼児期の生活を大事にしていけるのではないかと。
- 記号としての文字ではなく、幼児期に言葉を豊かにする経験が大切ではないかと。しりとりや言葉遊び、手遊び、聞いて想像する力など、就学前施設で当たり前に行っていることを、小学校の教師も学びのつながりを意識して取り入れていくことが重要であると。

授業を振り返って

- 幼児教育を知ることで、学びのつながりを認識することができた。ただ、「○番目」や「前から▲人目」といった言葉の意味を明確に理解させるには、実際に並んでみる、「まる図」がイメージしやすいようにフープなどを使ってみるなど、具体的に捉えさせる工夫があればよかった。
- 幼保の学びとして、小学校の学習内容を知ることで保育を見直す機会になった。例えば、幼児は「数詞」を覚えて使う時期でもあるが、絵本は1「冊」、鉛筆は1「本」など、保育者が意識して正しく使うことも算数につながることを改めて感じた。幼児期での豊かな経験とともに、保育者の役割の重要性を再確認した。